

# 調査結果の概要

## 1 要 旨

平成19年産主要果樹の結果樹面積は21万200haで、前年産に比べ3,300ha（2%）減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等による廃園等があったためである。

収穫量は306万7,000 t、出荷量は271万6,000 tで、前年産に比べてそれぞれ25万 t（9%）、23万4,000 t（9%）増加した。

これは、みかんにおいて本年産が表年であったことや、かきにおいて開花期がおおむね天候に恵まれたこと等により結果数が多かったためである。

表 1 平成19年産主要果樹の結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品 目	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比（%）			
					結果樹 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
1) 計	ha 210 200	kg ...	t 3 067 000	t 2 716 000	98	...	109	109
み かん	49 300	2 160	1 066 000	950 500	98	129	127	128
り かん	39 900	2 110	840 100	748 700	99	102	101	101
日 本 なし	14 600	2 030	296 800	272 300	98	104	102	102
西 洋 なし	1 740	1 700	29 600	26 100	99	106	105	106
か き	23 200	1 060	244 800	196 000	99	107	105	105
び わ	1 740	328	5 710	4 590	98	96	94	94
も も	10 200	1 470	150 200	137 400	99	103	103	103
す も	3 050	718	21 900	19 100	99	104	102	104
お う	4 490	370	16 600	14 900	100	80	80	81
う め	17 500	689	120 600	102 800	97	104	101	102
ぶ ど う	18 600	1 120	209 100	190 700	98	100	99	99
く り	23 000	96	22 100	15 600	99	97	96	96
2) パインアップル	3) 438	2 370	10 400	10 100	99	98	97	97
キウイフルーツ	2 420	1 360	32 800	27 300	98	103	101	103

注：1)計は、14品目の合計である。

なお、平成19年産から、なつみかん、はっさく、いよかん及びネーブルオレンジの4品目に関する調査を廃止したことから、前年産対比は平成18年産計についても14品目で集計し、対比を行った。

2)パインアップルは、沖縄県の数値である。

3)パインアップルは、収穫面積である。

2 解説  
(1) みかん

ア 結果樹面積

結果樹面積は4万9,300haで、前年産に比べて1,000ha(2%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等による廃園やその他かんきつ類への転換等が進んだためである。

なお、前の表年である17年産に比べて2,200ha(4%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,160kgで、前年産に比べて490kg(29%)上回った。

これは、本年産が表年であったため和歌山県等で結果数が多かったためである。

なお、17年産に比べて40kg(2%)下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は106万6,000t、出荷量は95万500tで、前年産に比べてそれぞれ22万4,100t(27%)、20万7,300t(28%)増加した。なお、17年産に比べてそれぞれ6万6,000t(6%)、5万4,500t(5%)減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、和歌山県が17%、愛媛県が16%、静岡県が14%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図1 みかんの結果樹面積及び収穫量の推移

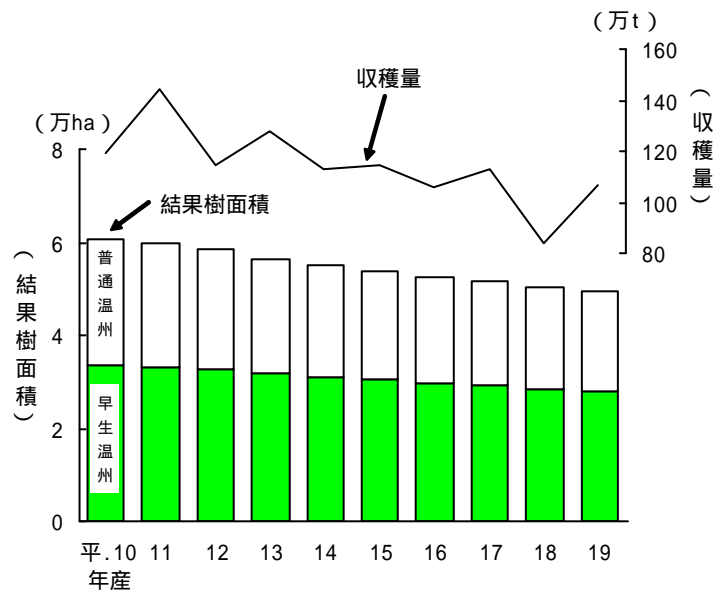


図2 平成19年産みかんの都道府県別収穫量割合

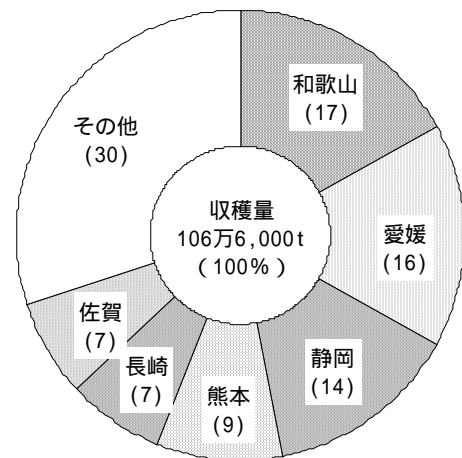


表2 平成19年産みかんの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目・品種	結果樹面積	10a当たり収	収穫量	シェア	出荷量	前年産対比(%)			
						結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量
みかん	49 300	2 160	1 066 000	100	950 500	98	129	127	128
早生温州	28 100	2 240	628 300	59	568 500	98	132	129	129
うち、ハウスみかん	848	4 840	41 000	4	39 000	88	105	93	93
極早生みかん	9 170	1 990	182 100	17	164 900	101	130	132	132
普通温州	21 300	2 060	438 100	41	382 000	98	126	124	126

注：みかんは、果実数が多くなる年(表年)と少なくなる年(裏年)とが交互に発生する現象(隔年結果)が顕著であり、19年産は表年であることから( )内については前の表年(17年産)との対比である。

(2) りんご

ア 結果樹面積

結果樹面積は3万9,900haで、前年産に比べて400ha(1%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等による廃園等が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,110kgで、前年産に比べて50kg(2%)上回った。

これは、長野県において開花期の低温、凍霜害の影響により受精不良が発生し、着果数がやや少なくなったことに加え、8月の高温・少雨の影響で果実の肥大が抑制された品種があったものの、青森県等で開花期や8月以降の果実肥大期に天候に恵まれたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は84万100t、出荷量は74万8,700tで、前年産に比べてそれぞれ8,300t(1%)、9,200t(1%)増加した。

都道府県別にみた収穫量割合は、青森県が55%、長野県が20%、岩手県が7%となっており、この3県で全国の約8割を占めている。

図3 りんごの結果樹面積及び収穫量の推移

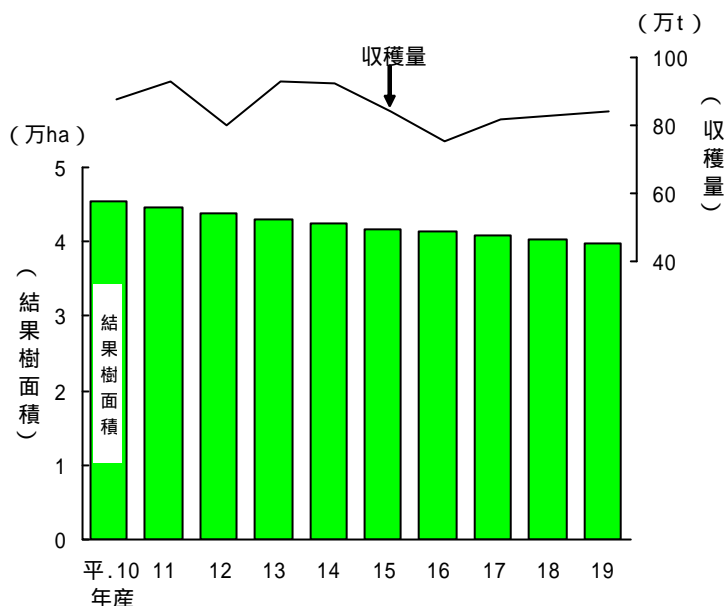


図4 平成19年産りんごの都道府県別収穫量割合

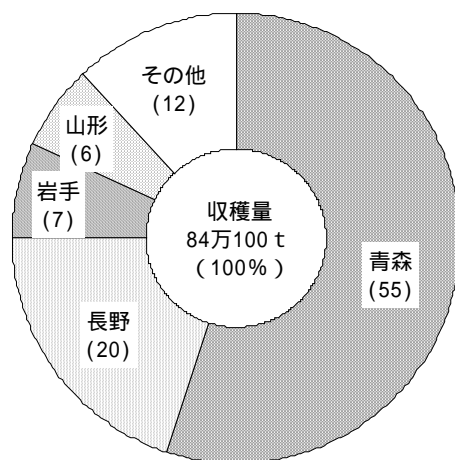


表3 平成19年産りんごの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目・品種	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	シェア	出荷量	前年産対比(%)			
						結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	%	t				
りんご	39 900	2 110	840 100	100	748 700	99	102	101	101
つがる	5 370	1 860	99 900	12	88 200	99	102	101	101
王林	3 560	1 990	70 900	8	64 000	98	102	100	100
ジョナゴールド	3 480	2 140	74 600	9	67 900	98	96	95	96
ふじ	20 500	2 290	468 400	56	415 900	99	103	102	102

(3) 日本なし

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万4,600haで、前年産に比べて300ha(2%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等による廃園等が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,030kgで、前年産に比べて70kg(4%)上回った。

これは、4月から5月にかけて関東地域を中心にひょう害が発生した他、一部地域で台風第4、5及び9号の影響により落果等が発生したものの、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は29万6,800t、出荷量は27万2,300tで、前年産に比べてそれぞれ5,400t(2%)、5,700t(2%)増加した。

都道府県別にみた収穫量割合は、千葉県が12%、茨城県が10%、鳥取県、福島県及び栃木県がそれぞれ8%、長野県が7%となっており、この6県で全国の約5割を占めている。

図5 日本なしの結果樹面積及び収穫量の推移

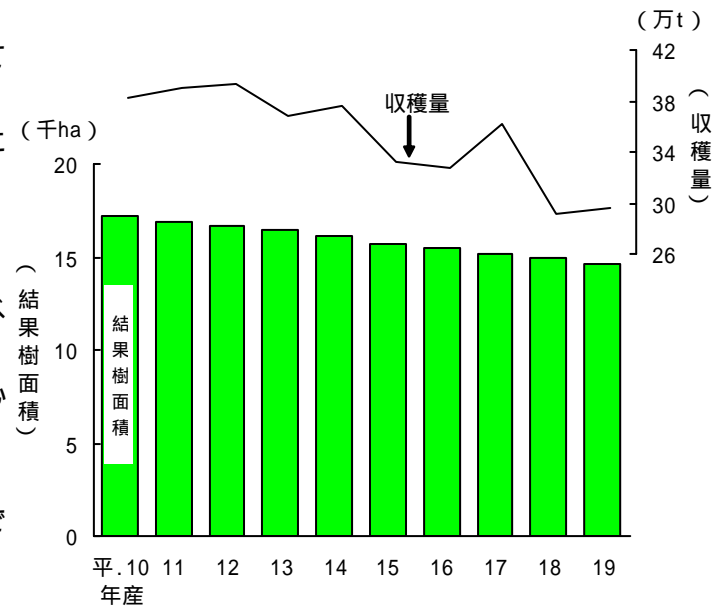


図6 平成19年産日本なしの都道府県別収穫量割合

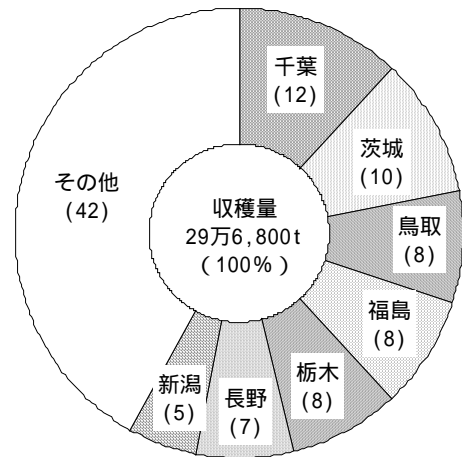


表4 平成19年産日本なしの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
日本なし	14 600 ha	2 030 kg	296 800 t	272 300 t	98	104	102	102

(4) 西洋なし

ア 結果樹面積

結果樹面積は1,740haで、前年産に比べて20ha(1%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等による廃園等が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,700kgで、前年産に比べて90kg(6%)上回った。

これは、新潟県で8月から9月にかけて天候不順の影響により果実肥大が抑制されたことに加え、病害果等が発生したものの、その他の県では生育期間をとおしておおむね天候に恵まれたことから、結果数が前年に比べてやや多く、果実肥大も良好となったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万9,600t、出荷量は2万6,100tで、前年産に比べてそれぞれ1,300t(5%)、1,400t(6%)増加した。

都道府県別にみた収穫量割合は、山形県が全国の約6割を占めている。

図7 西洋なしの結果樹面積及び収穫量の推移

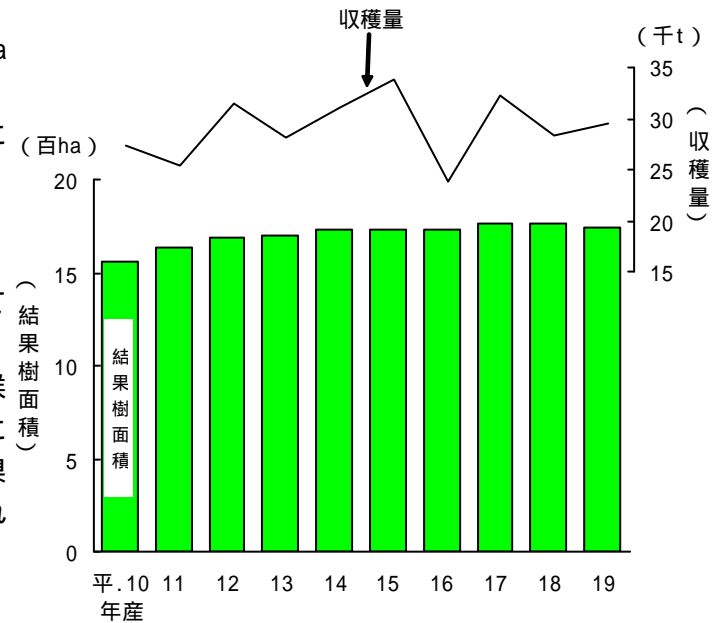


図8 平成19年産西洋なしの都道府県別収穫量割合

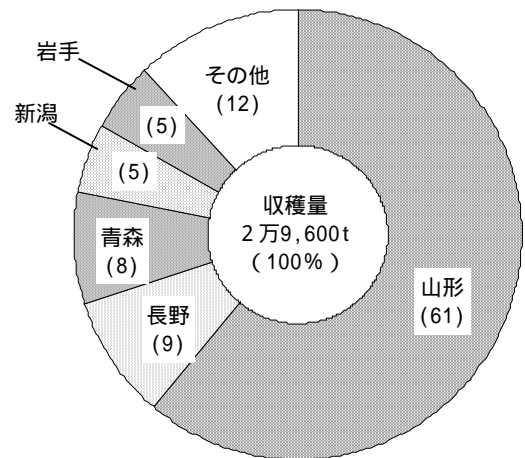


表5 平成19年産西洋なしの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
西洋なし	ha	kg	t	t	99	106	105	106
	1 740	1 700	29 600	26 100				

(5) かき

ア 結果樹面積

結果樹面積は2万3,200haで、前年産に比べて300ha(1%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等による廃園等が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,060kgで、前年産に比べて70kg(7%)上回った。

これは、福島県等で発芽後に凍霜害が発生したことに加え、8月以降の天候不順の影響で果実の肥大が抑制されたものの、全体的にはおおむね天候に恵まれたことから作柄が前年に比べてやや良好となったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は24万4,800t、出荷量は19万6,000tで、前年産に比べてそれぞれ1万2,100t(5%)、9,300t(5%)増加した。

都道府県別にみた収穫量割合は、和歌山県が21%、奈良県が11%、福岡県が8%となっており、この3県で全国の4割を占めている。

図9 かきの結果樹面積及び収穫量の推移

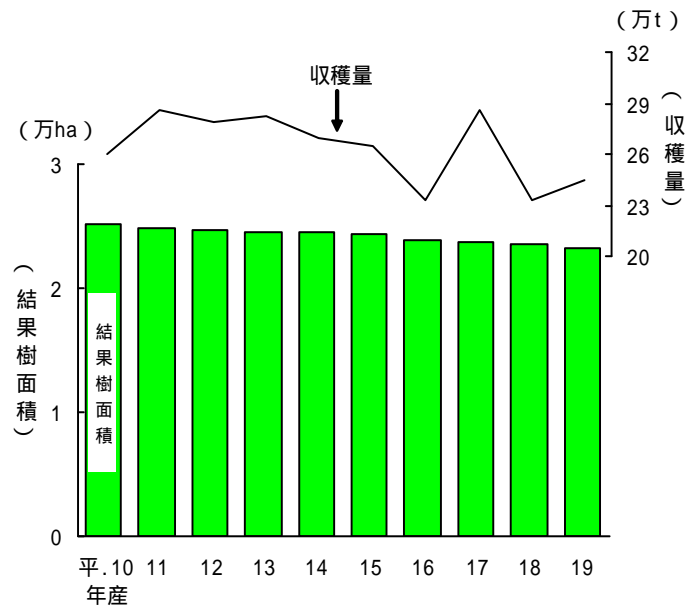


図10 平成19年産かきの都道府県別収穫量割合

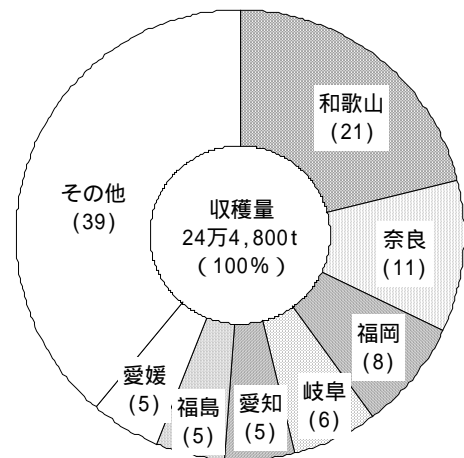


表6 平成19年産かきの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
かき	23 200 ha	1 060 kg	244 800 t	196 000 t	99	107	105	105

(6) びわ

ア 結果樹面積

結果樹面積は1,740haで、前年産に比べて40ha (2%) 減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等による廃園等が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は328kgで、前年産に比べて15kg (4%) 下回った。

これは、九州を除く地域では、生育期間をとおしておおむね天候に恵まれたことから作柄は良好であったものの、長崎県で前年の台風第13号の影響から潮風害による落葉が発生したため樹勢が低下し、結果数が少なかったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は5,710t、出荷量は4,590tで、前年産に比べてそれぞれ390t (6%)、290t (6%) 減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、長崎県が22%、千葉県が13%、香川県が11%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図11 びわの結果樹面積及び収穫量の推移

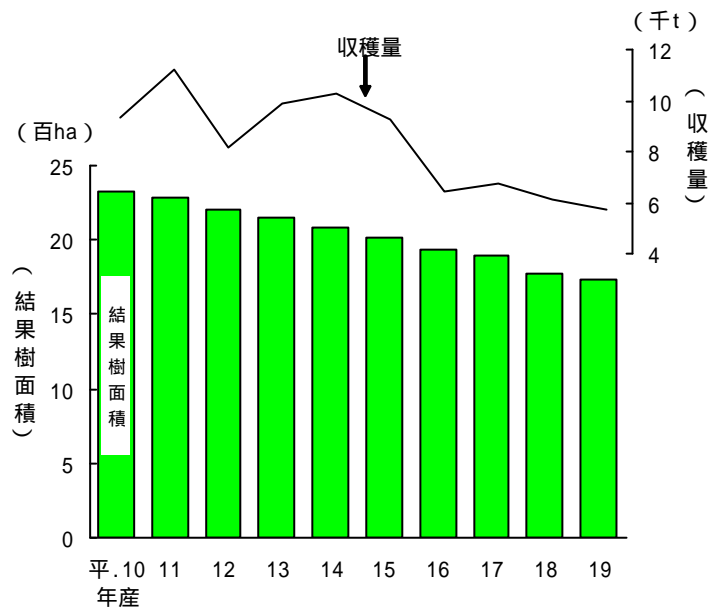


図12 平成19年産びわの都道府県別収穫量割合

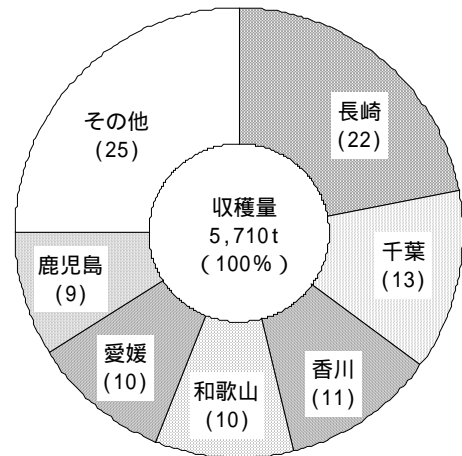


表7 平成19年産びわの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品 目	結果樹面積	10a当たり収量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収 穫 量	出 荷 量
び わ	ha 1 740	kg 328	t 5 710	t 4 590	98	96	94	94



(7) もも

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万200haで、前年産に比べて100ha(1%)減少した。

これは、福島県で新植や改植した園地が結果樹齢に達したことから増加したものの、その他の一部地域では品種更新に伴う改植や生産者の高齢化に伴う労働力事情による廃園等が進み、減少したためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,470kgで、前年産に比べて40kg(3%)上回った。

これは、福島県で4月中・下旬の開花期の低温による受精不良に加え7月の低温・多雨の影響による生理落果や病害により結果数が少なくなったこと等から作柄が前年産に比べ低下したが、その他の地域では開花期の低温等の影響はあったものの、その後おおむね天候に恵まれ作柄が前年産に比べやや良好となったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は15万200t、出荷量は13万7,400tで、前年産に比べてそれぞれ3,900t(3%)、3,500t(3%)増加した。

都道府県別にみた収穫量割合は、山梨県が36%、福島県が19%、長野県が12%となっており、この3県で全国の約7割を占めている。

図13 ももの結果樹面積及び収穫量の推移

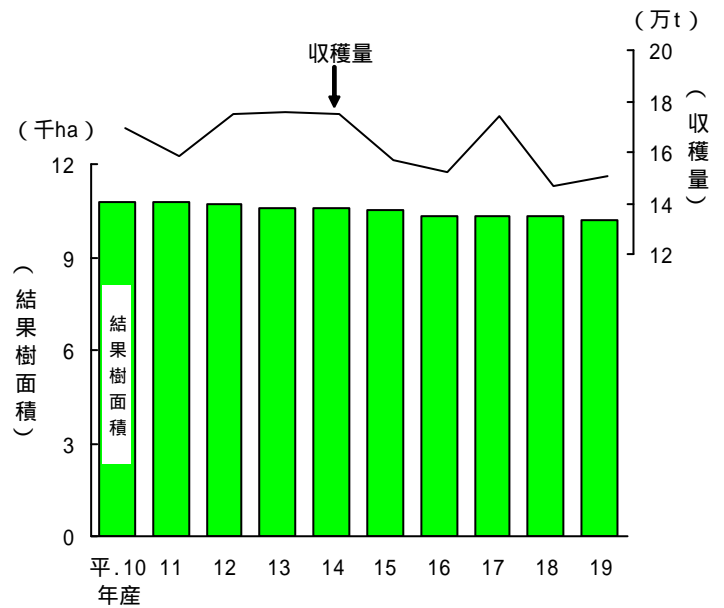


図14 平成19年産ももの都道府県別収穫量割合

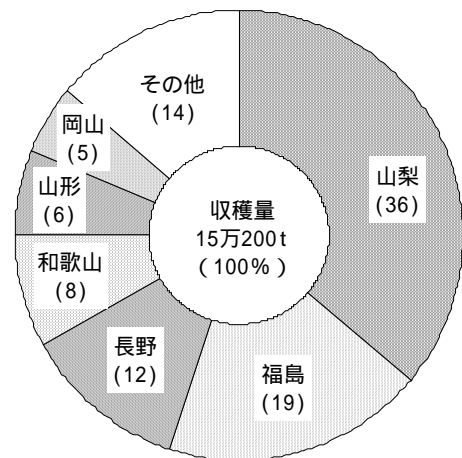


表8 平成19年産ももの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
もも	ha	kg	t	t				
	10 200	1 470	150 200	137 400	99	103	103	103

( 8 ) すもも

ア 結果樹面積

結果樹面積は3,050haで、前年産に比べて40ha ( 1 % ) 減少した。

これは、山形県及び長野県で新植や改植した園地が結果樹齢に達したことから増加したものの、その他の地域では品種更新に伴う改植や生産者の高齢化に伴う労働力事情による廃園等が進み、前年産に比べ減少したためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は718kgで、前年産に比べて26kg ( 4 % ) 上回った。

これは、4月中・下旬の開花期の低温の影響により受精不良等が発生したものの、前年産に比べ結果数がやや多く、果実肥大もおおむね前年産並みとなったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万1,900t、出荷量は1万9,100tで、前年産に比べてそれぞれ500t ( 2 % )、700t ( 4 % ) 増加した。

都道府県別にみた収穫量割合は、山梨県が30%、和歌山県が15%、長野県が14%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図15 すももの結果樹面積及び収穫量の推移

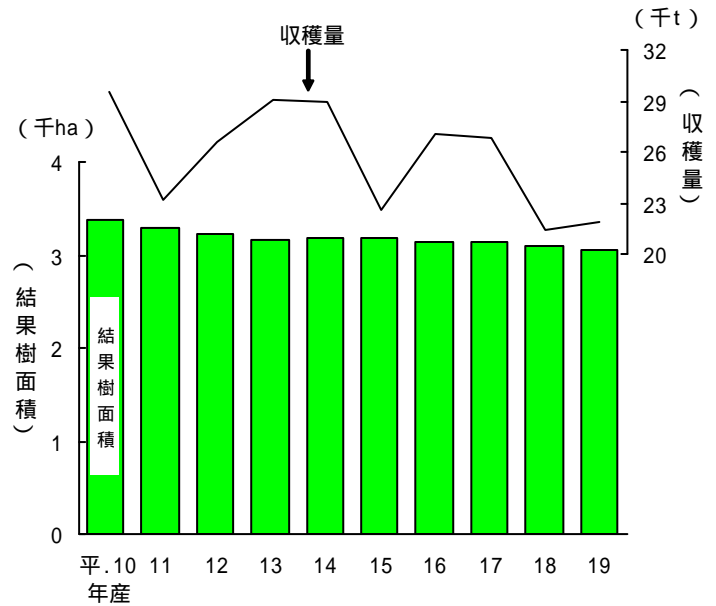


図16 平成19年産すももの都道府県別収穫量割合

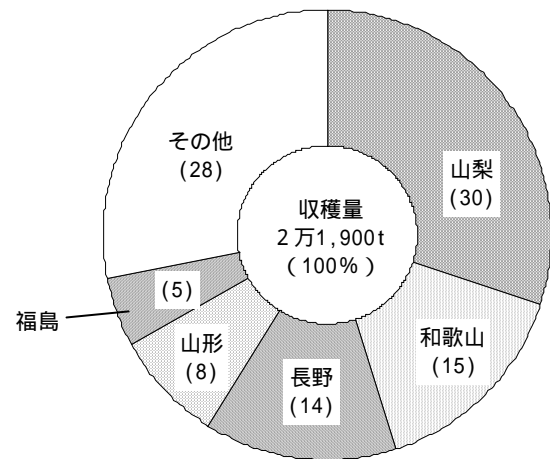


表9 平成19年産すももの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品 目	結果樹面積	10a当たり収量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 ( % )			
					結果樹面積	10a当たり収量	収 穫 量	出 荷 量
す も も	ha	kg	t	t	99	104	102	104
	3 050	718	21 900	19 100				

(9) おうとう

ア 結果樹面積

結果樹面積は4,490haで、前年産並みとなった。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は370kgで、前年産に比べて94kg(20%)下回った。

これは、山形県において、4月下旬から5月上旬の開花期が天候不順であったため受精不良が発生し、結果数が少なかったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万6,600t、出荷量は1万4,900tで、前年産に比べてそれぞれ4,200t(20%)、3,500t(19%)減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、山形県が全国の約7割を占めている。

図17 おうとうの結果樹面積及び収穫量の推移

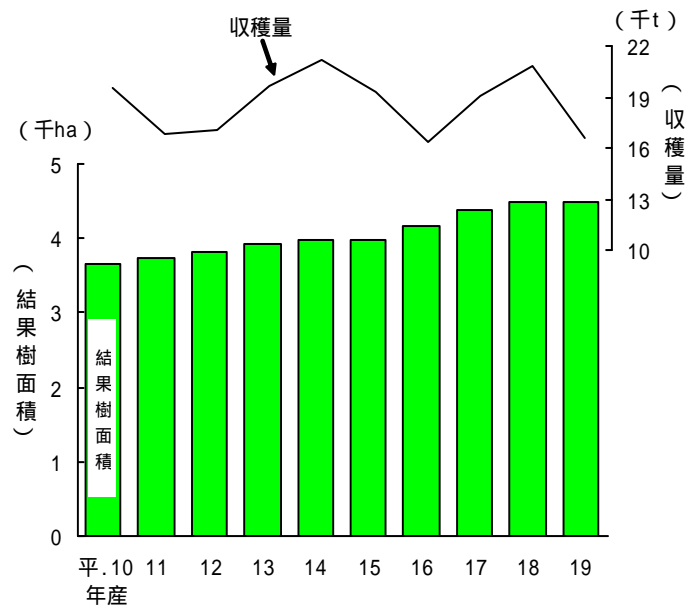


図18 平成19年産おうとうの都道府県別収穫量割合

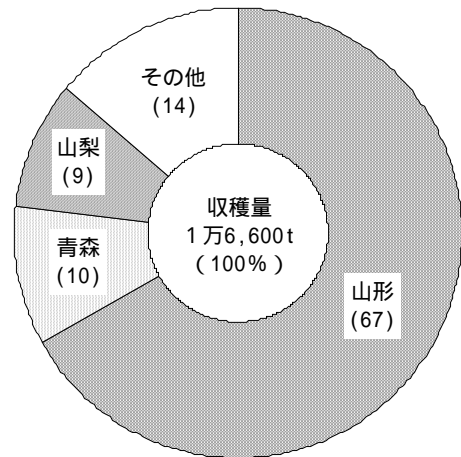


表10 平成19年産おうとうの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
おうとう	4 490	370	16 600	14 900	100	80	80	81

(10) うめ

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万7,500haで、前年産に比べて500ha (3%) 減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等による廃園等が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は689kgで、前年産に比べて25kg (4%) 上回った。

これは、開花期が天候に恵まれ、結果数が多かったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は12万600t、出荷量は10万2,800tで、前年産に比べてそれぞれ900t (1%)、1,700t (2%) 増加した。

都道府県別にみた収穫量割合は、和歌山県が全国の約6割を占めている。

図19 うめの結果樹面積及び収穫量の推移

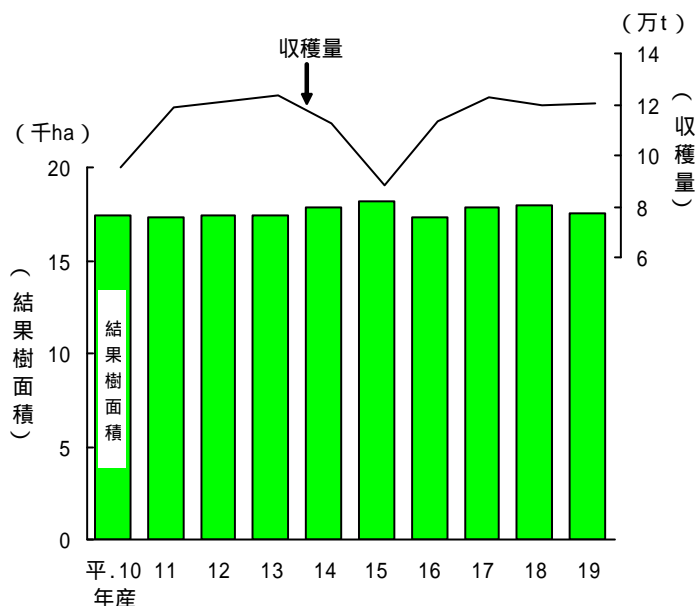


図20 平成19年産うめの都道府県別収穫量割合

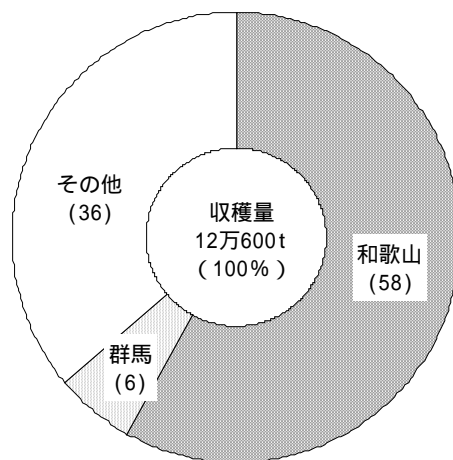


表11 平成19年産うめの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品 目	結果樹面積	10a当たり収	量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)			
						結果樹面積	10a当たり収量	収 穫 量	出 荷 量
う め	ha	kg	t	t					
	17 500	689	120 600	102 800	97	104	101	102	

(11) ぶどう

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万8,600haで、前年産に比べて300ha(2%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等による廃園等が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,120kgで、前年産並みとなった。

これは、一部地域で7月の多雨による裂果等が発生したものの、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は20万9,100t、出荷量は19万700tで、前年産に比べてそれぞれ1,400t(1%)、1,100t(1%)減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、山梨県が25%、長野県が15%、山形県が10%、岡山県が7%となっており、この4県で全国の約6割を占めている。

図21 ぶどうの結果樹面積及び収穫量の推移

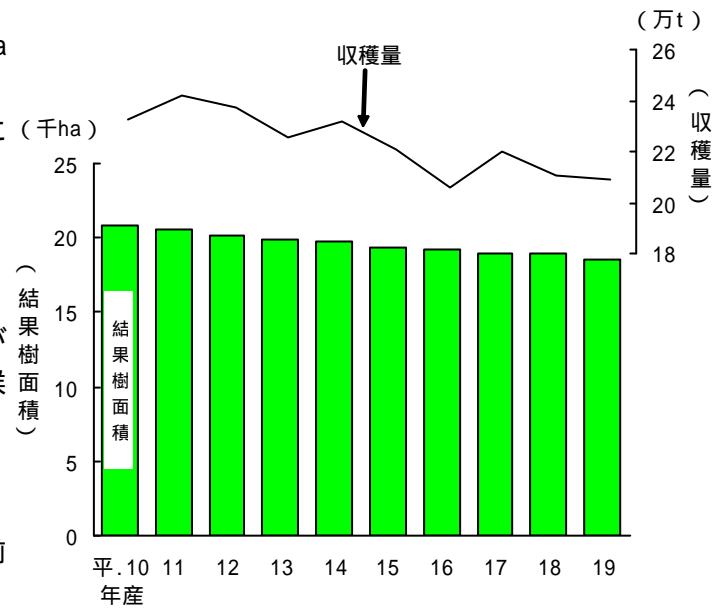


図22 平成19年産ぶどうの都道府県別収穫量割合

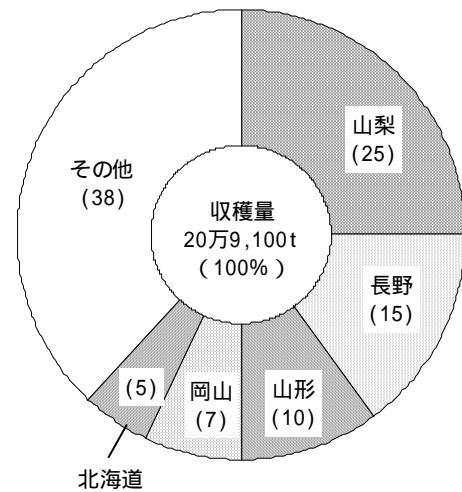


表12 平成19年産ぶどうの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品 目	結果樹面積	10a当たり収量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 ( % )			
					結果樹面積	10a当たり収量	収 穫 量	出 荷 量
ぶ ど う	ha 18 600	kg 1 120	t 209 100	t 190 700	98	100	99	99

(12) くり

図23 くりの結果樹面積及び収穫量の推移

ア 結果樹面積

結果樹面積は2万3,000haで、前年産に比べて300ha(1%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情による廃園等が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は96kgで、前年産に比べて3kg(3%)下回った。

これは、おおむね開花期の天候に恵まれたことから開花数や結きゅう(毬)数が前年に比べて増加したものの、7月下旬以降の高温・少雨の影響で果実の肥大が抑制されたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万2,100t、出荷量は1万5,600tで、前年産に比べてそれぞれ1,000t(4%)、600t(4%)減少した。

都道府県別にみた収穫量割合は、茨城県が24%、熊本県が14%、愛媛県が8%、岐阜県が5%となっており、この4県で全国の約5割を占めている。

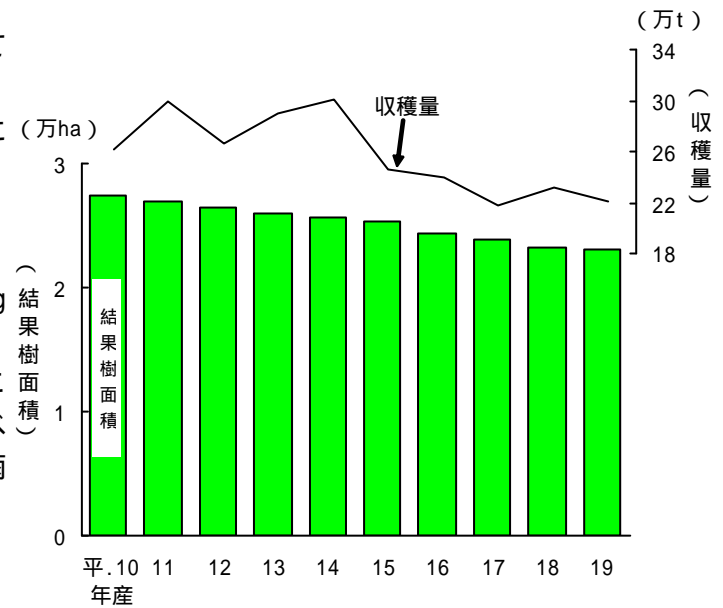


図24 平成19年産くりの都道府県別収穫量割合

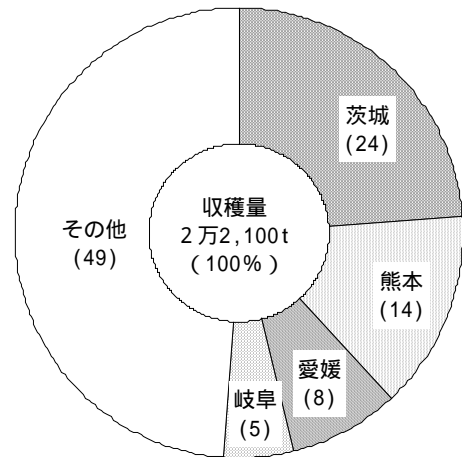


表13 平成19年産くりの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
くり	ha	kg	t	t	99	97	96	96
	23 000	96	22 100	15 600				

(13) パインアップル(沖縄県)

図25 パインアップルの収穫面積及び収穫量の推移

ア 収穫面積

収穫面積は438haで、前年産に比べて3 ha ( 1 % ) 減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情による廃園等が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10 a 当たり収量は2,370kgで、前年産に比べて50kg ( 2 % ) 下回った。

これは、沖縄本島地域において、果実の登熟が早まり収穫期間が集中したため労働力事情等により収穫が出来なかったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万400t、出荷量は1万100tで、前年産に比べて、ともに300t ( 3 % ) 減少した。

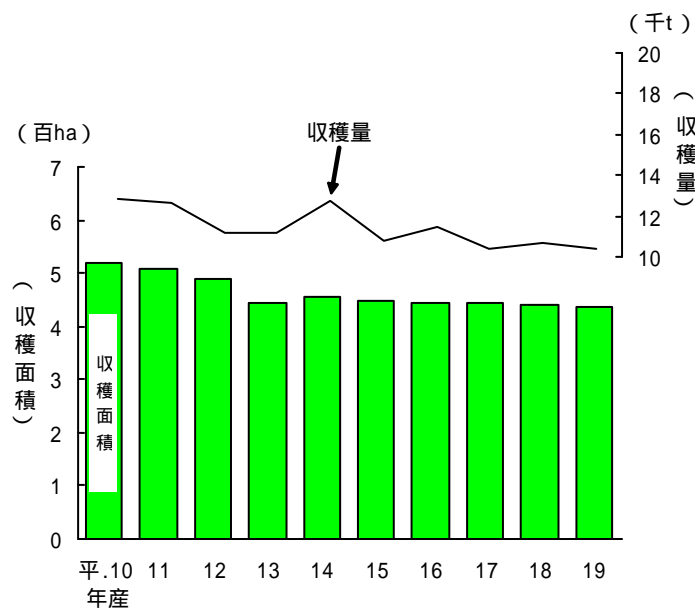


表14 平成19年産パインアップルの収穫面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品 目	収穫面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					収穫面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
パインアップル	ha 438	kg 2 370	t 10 400	t 10 100	99	98	97	97

(14) キウイフルーツ

ア 結果樹面積

結果樹面積は2,420haで、前年産に比べて50ha(2%)減少した。

これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情による廃園等が進んだためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,360kgで、前年産に比べて40kg(3%)上回った。

これは、福岡県で今年の台風による落葉で樹勢低下が発生し開花数が少なくなったことに加え、病害虫の発生が多かったものの、愛媛県等では5月から6月の開花期の天候に恵まれ、結果数が多く、果実肥大もおおむね良好となったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は3万2,800t、出荷量は2万7,300tで、前年産に比べてそれぞれ300t(1%)、800t(3%)増加した。

都道府県別にみた収穫量割合は、愛媛県が25%、福岡県が16%、和歌山県が11%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図26 キウイフルーツの結果樹面積及び収穫量の推移

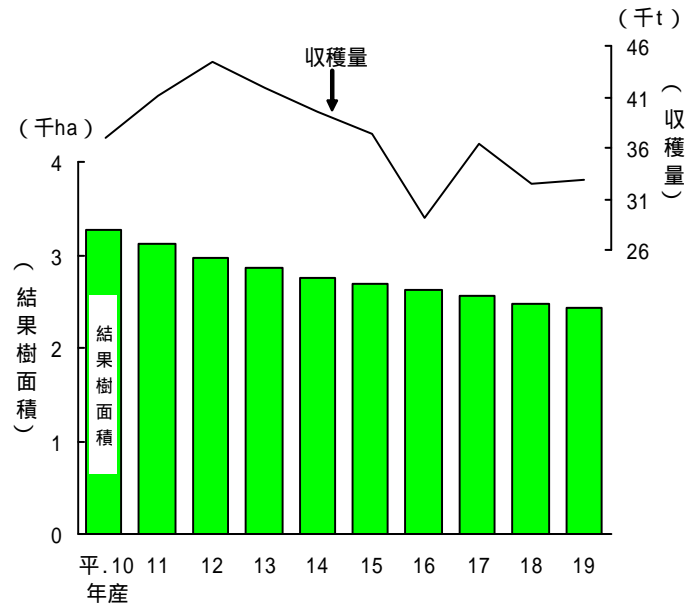


図27 平成19年産キウイフルーツの都道府県別収穫量割合

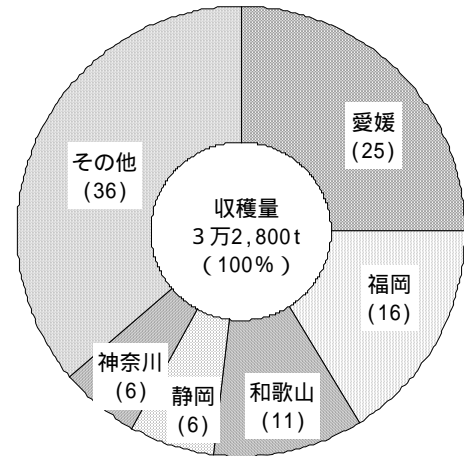


表15 平成19年産キウイフルーツの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
キウイフルーツ	ha 2 420	kg 1 360	t 32 800	t 27 300	98	103	101	103